



# 八嘉小だより

玉名市立八嘉小学校  
令和5年1月16日  
校長 東山 幸輔

共感力（にこにこ） 自進力（はきはき） やりぬく力（こつこつ）

## 後期後半は進級・進学への準備、そしてスタート！



●転入児童2人を迎え、後期後半も2週目となりました。後期後半は、進級・進学へ向け準備しスタートする大切な期間です。子どもたちの進級・進学への期待や希望を育む3ヶ月にしていきたいと考えています。さて、甲辰の今年、元日から自然災害が発生し、翌2日には航空事故と、胸が締めつけられる思いです。9日の全校集会では何をどう伝えるか迷いながら、次の話をしました。

皆さんも、テレビ等の報道で知っていると思いますが、石川県では、1月1日の午後4時頃、能登半島で震度7の地震、そして津波が発生し、多くの被害が出ています。今朝の報道では168人の方が亡くなられ、行方が分からない人もたくさんおられるようです。また、建物や道路、そして水道や電気等の生活に必要なものも壊れ、多くの方が、雪の降る寒い中で避難生活をされています。

この場をかりて、今回の地震で亡くなられた方々のご冥福をお祈りしますとともに、被災地の一日も早い復旧を願い、みんなで「黙祷」を捧げたいと思います。（黙祷）

皆さんの住む熊本県でも平成28年4月、熊本地震がありました。令和2年7月には、大雨で球磨川が氾濫し、たくさんの被害が出ました。3年前ですので覚えている人もいます。今日はこの時（熊本豪雨）の体験を綴った、小学校4年生の作文を読ませてもらいます。

『ぼくのあたりまえ 球磨村立渡小学校 4年

ぼくのあたりまえの生活はとつぜんうばわれた。友だちといっしょに歩いて学校に行けること。学校があたりまえにあること。ランドセルがからえること。教室で授業を受けられるということ。そして友だちに会えるということ。そんな、あたりまえな日常が、真っ黒な雨雲にいっしょんでうばわれた。雲、雨、川、自然がこんなに怖いものだと考えもしなかった。よその水害を見たことはあったけど、本当は自分が体験したくなかった。学校もなくなった。家もなくなった。（後略）』

皆さんにも「あたりまえ」の、何気ない毎日の生活があります。みんなと一緒に勉強ができること。友達に会えること、遊べること。帰る家があり、家族がいて、食事ができること。そして、「おはよう」「こんにちは」「さようなら」を伝える人がいること。そんな「あたりまえ」に感謝して、「あたりまえ」の日々を大切に過ごしていきましょう。

●熊本豪雨発災当時、私自身も人吉市に住んでおり、被害を目の当たりにするとともに、発災から避難生活、そして、復旧に向けた動きの中で、少しずつ日常を取り戻していく同僚や子どもたち、町の姿を少なからず目にしてきました。その時のいろんな思いが重なり、子どもたちに話をさせていただきました。ご家庭でも、話題にしていただけたらと思います。今年も、どうぞよろしくお願いいたします。

## 大谷選手からのプレゼント 野球しようぜ

●八嘉小にも、大谷選手からのグローブとメッセージが届きました。メッセージには、「このグローブが、私たちの次の世代に夢を与え、勇気づけるためのシンボルとなることを望んでいます。野球しようぜ。」と綴られています。憧れのメジャーリーガーからの贈り物、触れて、遊んで、夢を描いて欲しいなと思います。



◆子どもたちの学校での様子や学校からのお知らせを等、学校のホームページに掲載しています。

【TEL】0968-72-2602 【FAX】0968-72-6278 【HP】<https://es.higo.ed.jp/hakkasyo/>

